

【鯖江市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、ICTの活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、子どもたちの資質・能力を育成することが求められている。

本市においては、鯖江市学校教育基本方針として「生きる力（確かな学力・豊かな心・たくましい体）を育む学校教育の推進」を掲げる中で、1人1台端末を含むICT環境の整備やAIドリル・協働学習支援アプリ等のICTを活用した学習活動を通して、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末の整備については、令和2年度に6,600台を整備し、児童生徒および教職員全員への整備を実現した。ネットワークの整備については、令和2年度に市内全小中学校で実施し、GIGAスクール構想の実現に向けた校内通信ネットワークを整備した。

さらに、臨時休校等の学びの保障として、1人1台端末の家庭への持ち帰りを可能とし、家庭に通信環境がない場合にはモバイルWi-Fiルータも整備し、誰一人取り残さない環境を実現した。

学校での学習活動においては、端末を使って児童生徒が自分の考えをまとめ、クラスメートとリアルタイムで考えを共有する協働学習支援アプリや児童生徒一人ひとりの理解度にあわせて問題を出すAIドリルを利用するなど、多種多様なデジタルコンテンツを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進してきた。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第2期においても、引き続き児童・生徒に1人1台端末の環境を確保するとともに、より一層の利活用を推進していく。

(1) 「1人1台端末の積極的活用」

AIドリル、協働学習支援アプリ、学習者用デジタル教科書等を活用することで、校内及び家庭学習で課題に取り組む場面を増やし、学習支援を推進する。教員のICT活用指導力向上のため、個々のスキル度合いに応じて、授業等での効果的な活用方法を学ぶことができる、教員向けICT研修会を実施する。またICT機器へ造詣が深く、教材の知識も有するICT支援員を配置し、ICT活用の各種支援を行う。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

令和4年度に導入したAIドリルの活用をさらに進め、教育データを活用することで、理解度や学習進度に合わせた個別最適な学びを進める。また、協働学習支援アプリを効果的に活用することで、「調べる」「考えをまとめる」「発表する」など授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

(3) 「学びの保障」

誰一人取り残さない学びの実現に向けて、日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で端末を活用する。